

の献金ができるのでしょうか。証拠はまだありませんが、どこから回ってきたカネを出している可能性が高い、と言わざるを得ない。いずれにしても、多くの国民は、過激派などは過去の話だと思っていたのですが、それが現在も活動しており、しかも民主党に深く浸透していることを、今回の献金事件は雄弁に物語っているわけです。つまり、今回の献金問題は、従来の政治とカネの問題を超越した、きわめて根源的かつ深刻な問題をはらんでいるということです。

——なぜこのグループに献金したかという古屋さんの質問に、菅総理は「ローカルパーティとの連携強化の一環」と答えていますね。古屋 しかし、他のローカル・パーティにも同じような献金をしているかどうか質したところ、菅総理は何も答えることができなかった。要するに、「市民の党」グループにだけ献金しているのです。また、7月前半に自民党の磯崎陽輔参議院議員の質問に対して、菅総理はこのグループに対する献金について、「報道されていることは承知しているが、それ以上のことは承知していません」と答えていました。しかし、その後、私が調べたところ、菅さんが斎藤まさし氏らと写っている古い写真が出てきたり、斉藤氏が「菅直人とは30年来の付き合いで、最初の選挙から応援している」と機関紙に紹介していることも明らかになりました。このグループと菅総理がきわめて親密な関係にあることは明白です。

また、菅総理は、以前「市民の党」が出していた「新生」という機関紙に、定期的に投稿していましたが、そこには「よど号」ハイジャック事件のリーダーだった田宮高磨も投稿していました。このことから、このグループが極左過激派の流れであることは明らかで、菅さんはそのことを承知で関係を持っていたと思わざるを得ません。

## マカオの銀行口座封鎖と2億円献金時期の符合

——よど号グループとは今も密接な関係があるようですね。

古屋 今年の統一地方選挙で、菅総理の地元武蔵野市の隣、三鷹市の市議会議員選挙に、森大志氏という候補者が「市民の党」から立候補し、落選しています。実はこの森大志氏の父親は元よど号ハイジャック犯リーダーの田宮高磨、母親は石岡亨さん・松木薫さんを拉致した実行犯の森順子です。森大志氏は20歳まで北朝鮮で過ごし、田宮高磨がつくった日本人革命学校で、徹底的に金日成思想の教育を受けてきた人です。その人が日本へ戻ってきて、両親が日本国籍ですから、日本国籍を取得し、市議員に立候補している。北朝鮮はこうして人も送り込んできている。

それだけではありません。「市民の党」や「MPD」の事務所は、北朝鮮と関係の深い経営者が所有しているビルに入っていて、しかも、その事務所の会計担当者や会計責任者

は、ほぼ同じ人が務めていると言っている状況です。さらに、「市民の会」などに献金している民主党国会議員の秘書や会計責任者が、それらと重複しているケースが多くある。こうしてみると、これらの団体とそこに献金していた民主党議員は、完全に一体化していたと言っても過言ではない。となると、政治資金報告書に書かれている献金であっても、その実態はどこからきたカネかわかったものではありませんよ。

——「市民の会」などの団体に対して、菅総理はじめ民主党から献金されたカネは、必ずしも民主党の財布から出されたものではない可能性がある、ということですか。

古屋 実はアメリカのブッシュ政権が、北朝鮮をテロ支援国家に指定し、マカオの銀行、バンコ・デルタ・アジアに金正日総書記が持っていた個人口座を封鎖していたことがありました。菅総理らが「市民の会」などに献金していた時期が、その時期と重なっているのです。類推すれば、本来、北朝鮮から流れていたはずのカネを、菅総理らが立て替えていたと見ることもできる。北朝鮮との間にそういう関係を築いている人が政権を担っているというのは、公安調査庁にしても、警察の公安にしても、忸怩たる思いだと思います。私たちがプロジェクトチームをつくって、この献金問題を追及しているのも、国民の皆さんにこの献金の構図を理解していただき、菅氏がいかにかに総理にふさわしくない人物か、民主党がい